大阪よどがわ市民生活協同組合
吹田市幸町4-1 ☎06(6319)5619
編集：組織部・広報グループ

笑顔ひろがる 豊かなくらし
食の安全 子どもの未来 地球環境 守りたい

機関紙 yodogawa
http://www.yodogawa.coop/
2010.7.12
No.298 7 JULY
次号は8月9日発行です

特集 ライトダウンキャンペーン……P4

土からちがう みんなで育てた 新 たまねぎ出来ました

たまねぎ農業体験

昨年の9月20日(日)から、連続参加のシリーズ企画としてはじまった「たまねぎ農業体験」は、今回が最後となりました。最終第4回目、収穫日となった5月30日(日)は天気にも恵まれ、参加の組合員、家族のみなさんと、たくさんの職員も参加して収穫しました。

種まきからスタートした農業体験

那賀(なか)地方有機農業推進協議会の『紀の川有機の里づくりプロジェクト』の一環として取り組みました。これは、化学肥料や農薬を少なくすることで、自然循環機能(命のつながり)を大切にする農業(有機農業や環境保全型農業)体験を通じて、消費者への理解を広げることをめざして毎年行われています。

一つの作物(たまねぎ)を、種まきから収穫まで体験することで農業のことや生協の産直を考えようと、9月から4回に渡り、種まき・定植・草取り・収穫を生産者と組合員が一緒になって『無化学肥料』『有機肥料』で栽培しました。

待ちに待った収穫!!

5月30日(日)収穫当日は青空の下、大型バスで現地へ出発。和歌山県紀ノ川農協の畑に降り立ったのは、組合員6家族とやる気満々(?)のよどがわ生協職員を合わせて42名。紀ノ川農協宇田組合長の畑をかりての農業体験です。今まで雨が多く、畑に行ってもぬかるんで作業ができなかった苦労もありましたが、種から立派に成長したたまねぎの収穫を迎えることができました。

たまねぎ1つひとつに歓喜しながら

作業中にはいろんな声や会話が聞こえました。「テントウ虫がいる～」「この大きさいいの～?合格?」「縦長(出荷基準以下)でも味はおんなじなんちゃうの?!」など、手も口も軽快に動きますが、途中葉を切る作業では涙が出てきて、四苦八苦しました。それでも種まきからの成長を思い起こせば、よく成長してくれたと喜びをかみしめながら1つひとつ大切に収穫しました。収穫後には、収穫したたまねぎを使ったカレーをみんなで食べました。自分たちで育て、収穫したたまねぎのカレーは格別でした。

職員と組合員も一緒になって、大きく成長したたまねぎを抜く作業から始まりました

ぬいたあとは、根っこと上部をハサミで切って、サイズに合わせてコンテナに入れていきます

たまねぎ収穫作業のちょとしたコツ!!

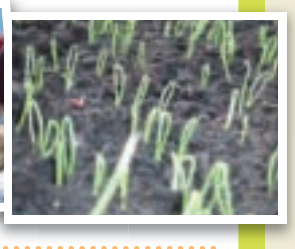
1. 地面からたまねぎを抜くと簡単に抜けます。
2. 根と葉の部分をハサミで切ります。
3. 少し乾かしてから、そっとかごに入れていきます。

※いくら大きくてもキズや皮のむけているのはダメです。
※小さすぎたり、縦長すぎるのも出荷基準に合いません

たまねぎが出来るまで

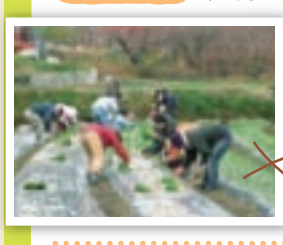
9月20日 種まき

ゴマ粒ほどの種を苗床に一粒一粒丁寧に撒き上から堆肥をかける作業をしました。「ベビーベッドに赤ちゃんを寝かせるよう」と感想が述べられました。



11月29日 定植

苗床で20センチほどに伸びた、たくさんの苗の中から元気の良い苗を選んで抜き、もう一度、本圃場に定植です。前日の雨でぬかるみ泥だらけの作業となりました。



ちょっぴり大きくなった玉ねぎに感動しました。

3月21日 草取り

残念ながら前日の雨で圃場がぬかるんでたため、少し大きくなった玉ねぎを眺めることしか出来ませんでした。宇田組合長より「これも農業、思ったように作業ができないこともある」の言葉に皆納得。玉ねぎの間引き菜の収穫と、産直一株トマトの定植体験を行ないました。玉ねぎ畑の直ぐ横の溝に蛍がいることも知りました。

有機農法へのこだわりと、人との繋がりを大切に

宇田組合長

みなさんが本日体験した作業を1ヵ月くらい続けています。なぜ有機農法をしているのかというと、いのちを大切にする農業がやりたいし、環境を良くしたいという気持ちが大きいです。たまねぎは一つひとつ形がちがうように、1つひとつが生き物なんです。また生産者がいて、流通を担う人がいて、消費者の手に届くということも実感できたでしょうか。『お互い様』の繋がりなんです。その精神が日本の農業再生に必要なのです。これからの日本の農業発展を考えると、農家の所得保障の制度も必要です。フランスではその制度で担い手が育っているのですから…。これからも有機農法で、よりおいしい野菜と健康をお届けしたいと考えています。

参加者の声

どれくらい育っているか、わくわくして畑に行きました。あの種からここまでりっぱなたまねぎが育ってくれた!!と、本当に愛おしく感じました。帰ってから野菜スープで心ゆくまでおいしく味わいました。(60代)

私は都会育ちで農作業とは無縁の生活を今までしてきましたが、今回の体験は子どもと同じように新鮮でした。この作業を毎日農家の方がされていると思うと、もっと食べ物や自然を大切にしなくてはと痛感しました。(30代)

収穫のみの参加でしたが、このとても大変な作業を日頃の作業と考えると、その大変さには頭が下がります。組合員さんのお子さんたちの楽しかった感想を聞くと、組合員活動の良さを再認識しました。(よどがわ生協職員)